



謹賀新年・今年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

◇真の暖かさを追求しよう◇

新春と云えども寒さはいっそう増しているようにも感じます。暖かい住宅に住むことで疾患率（病気を患う確率）が極度に低くなることは、過去にこの住まい新聞でも記述して参りました。

北海道は、外気温が氷点下 20℃、室温 24℃と 44℃もの気温差であっても疾患率が極めて低い事実を、研究学者が記したエビデンスも多くあります。

また暖かさのクオリティーも考慮しなければなりません。エアコンなどからの温風を吹き付けた暖房は、決して快適な暖かさをイメージ出来ません。

断熱性能の悪い家では、エアコン暖房を行うと温風が頭上を掻き混ぜて上昇し、足元を暖めずに天井付近を熱します。

高断熱の家では、エアコン温風が壁面、床面、天井面に吸収され、その六面体から輻射熱（遠赤外線）として放熱され、極めてクオリティーの高い暖房空間をつくる事が出来ます。

家の断熱性能と健康暖房のクオリティーは比例すると云えます。

◇断熱材の特性について◇

日本の断熱材は、グラスウールを使用することが前提で構築されてきたとも云えます。公的な断熱仕様書の殆どがグラスウール断熱材を基軸としています。

グラスウール断熱材は、布団と同じ綿（グラス繊維）を使用しております。綿は空気を抱えており、この綿の中の空気が断熱の役割を果たしております。

この空気は乾燥していることが前提となります。湿った布団は天日などで乾燥させられますが、壁の中や床下の綿状の断熱材を乾燥させることは困難です。

綿状の断熱材は、壁の中などの断熱層の空気を乾燥させたまま「静止」させることが前提です。壁の中のグラスウールと内壁、外壁との合間に空隙があると空気対流を起こして断熱性能を損ないます。また、どんなに厚く断熱材を充填しても隙間があれば空気は外部に逃げ出し、冷たい空気と入れ替わります。

そのためグラスウール断熱の場合は、ポリフィルムを内側に張り付けて気密層を構成します。断熱と気密は一体をなして暖かさを保持することになります。

ところが、このポリフィルムで空気の漏れない寸分の精度で施工するには、高度で大変な技術を要します。つまり施工者のコンディションや建物形状などで断熱性能や気密性能は、大きく異なる場合も多いのです。

◇樹脂断熱材の善し悪し◇

ファース本部は、昭和 60 年からグラスウール断熱材の他に施工精度や経年劣化のし難い素材を検証し始めました。

あらゆる樹脂断熱材を試し平成元年には、現場での樹脂スプレー発泡断熱工法に行き着き、出来上がったのがファース工法です。

しかし可燃性や木材呼吸などと、多くの課題と向き合うことになりました。当時の建設省（現国土交通省）の断熱手法評定を交付されるまでは、数年の歳月が掛かりました。何度も霞が関の断熱評議委員会に赴き、専門学者の先生方の指導受け、施工現場もご視察して貰い、平成 5 年 4 月に国内初の樹脂スプレー発泡方式の「断熱評定」を交付されました。

ファース本部が平成5年にスプレー発泡断熱工法の評定を交付されてからは、堰を切ったように多くのメーカーが参入してきました。

樹脂スプレー発泡は、発泡倍率を大きくして価格も安価に出来ますが、断熱性能と透湿性、強度が大きく損なわれます。

ファース工法は、硬質ウレタンを薄くしてスキン層を何層も重ね合わせます。また木材の呼吸を促しながらも強力な密着強度で構造体を剛体に致します。

当然価格も高くなりますが、お施主様の一生の快適なライフスタイルと、省エネで健康な空間を包み込みます。

断熱材は価格で選ぶのではなく性能で選択する事が賢明です。（著・福地脩悦）

幸太の知恵袋

体に良くない「食い合わせ」

「食い合わせ」はいけないっていうけど、これはただの迷信じゃないんだよ。

たとえばね、天ぷらとスイカを一緒に食べちゃダメっていわれるだろう。これはね、油分と水分は分離しやすいから消化に悪いってことなんだよ。あと、温かいものと冷たいものを一緒に食べるのも感心しないねえ。お腹をこわしてしまうことだってあるもんねえ。

食べる時も、料理を作るときも、十分気を付けるんだよ。